



CONTRAINDICATIONS & PRECAUTIONS

ベビーマッサージに関する禁止事項および注意事項

禁止事項 [108]

注意事項 [110]

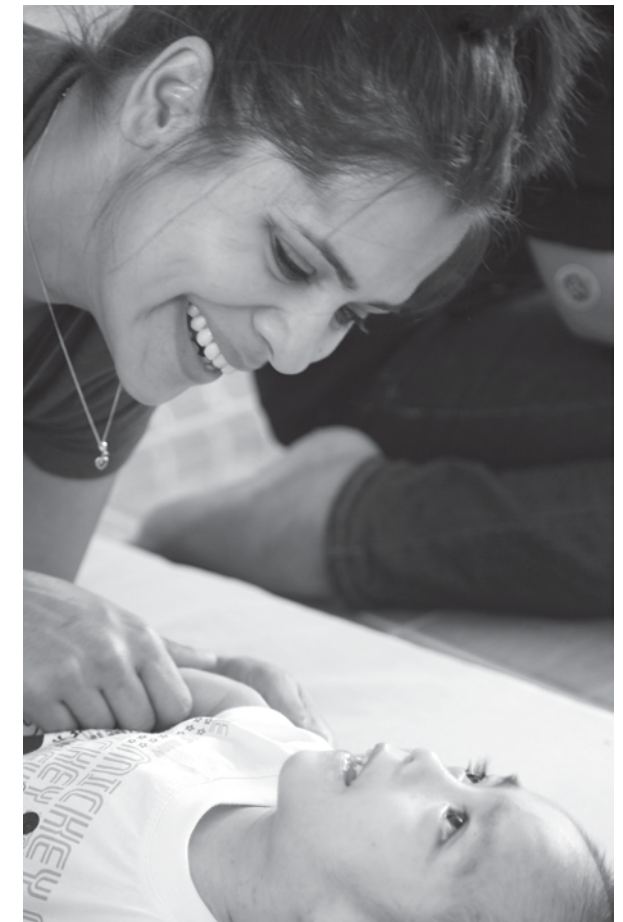
ベビーマッサージに関する禁止事項および注意事項

子どもに特定の病気や、何らかの考慮すべき事情がある時には、ベビーマッサージをおすすめ出来ない場合があります。このような場合には、ベビーマッサージを家族に教える前に、その子どもにとっての最善のケアを提供するためにも、その子の家族と医療従事者に子どもに関する必要な情報を聞いておきましょう。また、子どもの治療状況などに関するプライバシー保護にも注意してください。以下に、禁止事項や注意事項を列挙します。該当する場合にはベビーマッサージをしないようにしましょう。他にもマッサージが適切ではない場合があるかも知れません。疑わしい場合には、マッサージを続けずに、様子を見るようにしてください。

◆禁止事項◆

子どもが次のような場合には、マッサージをしないでください。

- 高い熱を出している場合
- 急性伝染病、ブドウ球菌による感染症、病気または伝染病などの疾病の場合
- 伝染の恐れや炎症を起こす恐れのある皮膚疾患の場合
- 開いた傷口や損傷がある場合
- 最近ワクチンや予防接種を受けた場合
(接種後は48 時間から72 時間の時間をおきましょう)
- 生命を脅かすような症状がある場合
- へその緒の傷が癒えていない場合 (お腹のマッサージはしないようにしましょう)
- リンパ節が腫れている場合
- 血栓または血液の障害がある場合
- 下痢その他の病気にかかっている場合



“Always practice with caution for best care of all children.”

◆注意事項◆

下記のいずれかの症状があると診断された子どもに関しては慎重にケアを進めてください。

- **無呼吸** — 一時的に呼吸が止まる。
- **徐脈** — 心拍数が低下し、脈拍が遅くなる。
- **頻脈** — 心拍数が高くなり、脈拍が速くなる。
- **腹部膨張** — 腹部がふくらんだり腫れたりしている。
- **胃腸または空腸に栄養チューブが挿入されている** — チューブを使用している具体的な理由を医療介護担当者に確認しましょう。チューブが外れないように気をつけましょう。
- **脳水腫** — 脳室内に脳脊髄液が異常にたまった状態。多くの場合、脳脊髄液の圧が増し、脳を圧迫して損傷を与えます。マッサージを提供する前に担当医に確認してください。シャントの周辺、感染の危険性、管が外れる危険性に注意してください。
- **腹部の近くでは排泄に注意してください。**
- **炎症** — ケガや刺激に対して身体の組織が反応している状態。痛み、腫れ、赤み、熱などの特徴があります。
- **浮腫** — 局所的な場合と全身に及ぶ場合があります。身体組織または体腔内に体液が異常にたまった状態で、患部の腫れや膨張を引き起こします。
- **形成不全** — 組織の異常な発達。顕微鏡で見ると細胞が異常な形状をしている。
- **血友病** — 血液が凝固しない、異常出血。
- **黄疸** — 血液中のビリルビンの過剰により胆汁（ビリルビン）の色素で新生児の皮膚や白目の部分（胸膜）が黄色くなる症状。原因として、胆汁の通路がふさがれているか、肝細胞の機

能障害が考えられます。

- **手術の直後** — 担当医に具体的なプロトコルを確認してください。「愛情のこもったタッチ」が役立つ場合があります。
- **HIV/AIDS** — ヒト免疫不全ウイルス／後天性免疫不全症候群。プロトコルに関する注意事項を担当医に確認してください。「愛情のこもったタッチ」が役立つ場合があります。腫瘍 — 拡大、炎症、膨張など、組織の自然発生的な成長により、組織の異常発達を形成します。
- **癌** — 特定のプロトコル（医療観察記録）があるかどうかかかりつけの医師に問い合わせてください。愛情のこもったタッチを提供することはよいでしょう。患者が放射線治療を受けているときは、マッサージは提供してはいけません。
- **脳卒中の発作などの異常** — 大脳機能の異常であり、特定の原因があるかどうか問い合わせてください。

MEMO: